

「一から十まで」

今年から、幼稚園の朝礼の持ち方を変えました。今までは、朝礼の時に、「日々の聖句：ローズンゲン」と呼ばれる聖句集を朗読していました。この「ローズンゲン」の良い所は、冊子の中に日々の聖書箇所だけでなく、聖句そのものが記されていることです。なので、「ローズンゲン」を開けば、その日に与えられた聖句をすぐに読んで分かち合うことができます。しかし、その良い所は、同時に悪い所でもありまして、「ローズンゲン」を開けばすぐに聖句に触れることができる一方で、その聖句は小さな冊子に収めるため非常に短く、その聖句の前後の文脈まで把握することはできません。あと、やっぱり、聖句に触れる時に大事なのは、「聖書を開く」ということだと思います。分厚くて、膨大な文字の海のような聖書を、それでもなお、開いて読んでみる。それって面倒くさいけど大事だと思います。ということで、今年から、朝礼では「ローズンゲン」に代わり、日本基督教団出版局が出している「日々の糧」という聖句集を使うことにしました。「信徒の友」の最後の方のページに収録されている、聖句集と同じやつですね。ただ、冊子としての「日々の糧」は聖句集ではなく、その日の聖書箇所しか書かれていません。だから、聖句を読もうと思うと、必然的に、聖書を開かないといけません。朝の忙しい時間帯に、朝礼で聖書を開くというのは、ちょっと無理やりな感がありましたが、「まあ、これも神様の時間を生きるということの具体的な現れかな」とか、適当な言い訳をしつつ、なんとか続けています。毎回5節から10節程度の聖句を読みます。それだけで結構時間がかかる上に、読んだからには、多少の解き明かしをしないと、訳の分からないまま先生たちを置き去りにすることになりますので、手短かにメッセージを語ります。今している説教という営みが、牧師にとって十分な準備を重ねた講演や、落語や、漫才であるとすれ

ば、朝礼でのメッセージは、バラエティ番組で、とっさに面白いことを言うひな壇芸人の話芸のような感じでしょうか。まあ、前日にしっかり次の日の聖書箇所を読み込んで、準備すれば良いのだとは思いますが、だいたい、いつも朝礼前にあわてて聖書箇所を確認して、「なんか言う」という危うい時間を過ごしています。

最近、とくに危ういと感じる理由は、「信徒の友」を確認頂いても良いのですが、ペンテコステまでの平日に指定されている聖書箇所は、ヨハネの黙示録なんですね。多分、クリスチャンになって何年経っても、ヨハネの黙示録の不思議さと言いますか、不可解さと言いますか、その豊か過ぎる、深過ぎる御言葉に立ち止まってしまうことはあるかと思えます。当たり前のように登場するサタンや地獄、痛々しく弱々しい子羊、目や手や羽を沢山もった異形の獣、妙に存在感のある天使や長老たち、繰り広げられる竜との対決と、大淫婦への裁き、金銀その他の貴金属宝飾品で彩られた天上の礼拝、4人の騎士による世界の終わりと、新しい天と地の出現……。一体、どこから説明を始めて、私たちの日常や業務に、それらの御言葉を落とし込んで行けば良いのか。ヨハネの黙示録は、本当に困難な書物であると言えます。

ただ、私は、このヨハネの黙示録は、2000年前の信仰者が知力を尽くして築き上げた「未来予想図」であると思っています。昨年の大晦日の礼拝でも同じことを言いましたが、ヨハネの黙示録は、壮大かつ大昔の「未来予想図」ですね。「イエス様が再び現れる未来には、こんなことが起こっているはずだ」ということを、様々な不思議な表現でヨハネの黙示録は伝えています。ただ、今を生きる私たちにとっては「様々な不思議な表現」ではあっても、当時の信仰者たちにとっては、至極真面目で最先端の知識の現れでした。この認識の違いについては、例えば、100年前に想定された21世紀の様子について振り返ってみると、よく分かります。20世紀初頭に多くの人々の間で共有されていた21世紀の様子は、非常に高度な文明でありつつも、同じくらい高度に奇妙でもありま

した。人は電話ボックスのような箱に入って移動し、自転車にプロペラを付けたような乗り物で空を飛ぶと思われていました。移動手段については、現実の 21 世紀の方が遅れを取っているようですね、大阪万博でも空飛ぶ車はお披露目されないというニュースを聞きます。代わりに通信手段については、実際の 21 世紀の方が先を行っています。100 年前の想像力では、スマートフォンの出現を予測することは難しかったようです。当時の未来予想図では、対面電話という名で映像と音声の通信は予想されていましたが、電話端末一つで音声、映像、文字通信を行い、ショッピングをし、株取引をし、映画を見たり、音楽を聴いたり、まして、ユーチューバーやインフルエンサーのような情報の発信者になれるとは、誰も想像しなかったでしょう。たった 100 年前でさえ、正確に現在の様子を思い描くことはできなかつた。とすれば、今から 2000 年前に書かれたヨハネの黙示録が、荒唐無稽な未来を書き残したとしても、それは不思議ではないことです。

確かに、ヨハネの黙示録に記されている未来予想図は的外れであり、当時から見れば実際に未来を生きる私たちにとって間違いだらけです。でも、それでもなお、ヨハネの黙示録が凄く思えるのは、当時の信仰者たちが、まだ見ぬ未来について、果敢にも想像力を広げて、「将来こうなるかも知れない」と考えていた、その逞しさを伝えているということです。私たちは、どれくらい未来に思いを馳せますか？ 10 年後、20 年後、50 年後、100 年後。この教会は、この社会は、この国は、この世界は、どうなっているだろうか、と考えたりしますでしょうか。

ヨハネの黙示録の著者や、その読者たちは、今のことだけじゃなく、未来のことについてもしっかり考えていたんですね。当時は、ローマ帝国による迫害の真っただ中でした。ヨハネの黙示録に登場する悪役たちは、だいたいローマ帝国の比喩、暗示の表現です。表立って批判できないから、サタンとか、竜とか、大淫婦とかという表現で、ローマ帝国への抵抗を示し、未来におけるローマ帝国の滅亡を期待していたのです。それに比べれば、非常に平和な時代を生きている私たちですが、

でも、人口減少や少子高齢化、教勢低下や信仰継承の難しさという課題を抱えている私たちも、現状に満足できているわけではありません。であれば、私たちは、どんな未来を思い描きますか？

2000 年前当時よりも、幾分か知識レベルの高い私たちですから、そんな無茶な未来予想図は思い描きたくないし、将来振り返ってみて荒唐無稽な未来予想図になるくらいなら、「そんなこと分かりません」と無難に答えたいところかも知れません。でも、それでもあえて考えてみましょう。どんな未来を思い描きますか？ 神様は、どんな未来を備えられていると信じますか？ 2000 年前、ローマ帝国の迫害下で、なお信仰と希望を忘れずに、困難からの解放、新しい世界の実現を思い描いた信仰者たちのように、私たちも、今から先の未来について思い描いてみるのは悪いことじゃないと思います。聖書は、古文書であり、過去の遺産です。でも、この遺産を私たちに語り伝えた人々は、はるか未来を見据えていたということは忘れないでいたいと思います。私たちは、ヨハネの黙示録を読むことで、2000 年前の信仰者の思いに寄り添いつつ、彼らが見据えたはるか未来について一緒に考えるのです。大昔の彼らにとっての救いが実現した未来は、では、私たちにとってどんな意味があるのか。2000 年前の、まさに夢想幻想に等しいローマ帝国の滅亡という救いが実現した御言葉の成就を知る信仰者の 1 人として、これから先の御言葉の成就について考えてみたいと思います。

私たちの神様は、「アルファであり、オメガ」であります。つまり、最初から最後まで、時の始まりから、時の終わりまで存在し、司り、支配し、導かれる方です。私たちは、寿命を持った儂く有限な存在ですが、幸いなことに、「一から十まで」すべてを取り仕切る神様の御名前を知り、そして、祈ることができます。私には、到底実現できないことでも、神様に委ねることができます。私がかつて失敗したことでも、この先神様にお任せすることができます。たとえ私が 10 年先には、もうこの地上にはない本籍地に帰っているとしても、神様に祈ることで 10 年後よりもさらに先の

未来に関わることが出来ます。

今日、敦賀教会は、年に1度の定期総会を開催します。とりあえずは、2024年度、目下の計画を教会員の総意をもって決めていきます。でも、この目下の計画は、今後続く敦賀教会の未来へ向けた重要な一歩でもあります。今日に至るまでの敦賀教会の歴史も、そうした1年ごとの小さな一歩の積み重ねでした。こうやって、教会の歴史を、神様の導かれる歴史を、皆様と一緒に積み重ねていけることを嬉しく思います。これからも、神様と共に、皆様と共に、教会の未来を考えて、そして創り出して参りましょう。アルファであり、オメガである神様の御守りと導きを心から祈るものであります。お祈りを致します。

神様。今日も私たちのために尊い安息日をお与えくださり、感謝致します。今日と言う日は、あなたがかつて導いて来られた歴史の最先端の1日であり、また、これからあなたが導かれる歴史の始まりの日でもあります。今日までの日々の出来事に感謝すると共に、今日から始まる新しい日々も、あなたの御守りの内に健やかに幸せに歩んで行けますように、心からお祈り致します。私たちは、あなたの御名を知り、祈ることのできる幸いを生かされています。あなたを知ることで、私たちには希望が与えられ、どんな時でも喜びを見出すことができます。どうか、あなたの喜ばしい御名を称える声が、増し加えられますように。あなたの導きと御守りを受け入れて、この世界が少しでも落ち着きを取り戻し、平和になりますように。また、今日も再び、あなたの御守り内に、教会総会を執り行おうとしている私たち一人ひとりの信仰と知恵とを強めて、あなたの御心に適う2024年度の計画を整えることができますように。喜び多い、楽しい1年を歩み始めることができますように。どうか導いてください。このお祈りを、我らの主イエス・キリストの御名を通して、あなたの御前にお捧げ致します。

5月召天者を憶える祈り

聖書：ヨハネの黙示録7章13～17節

すると、長老の一人がわたしに問いかけた。「この白い衣を着た者たちは、だれか。また、どこから来たのか。」そこで、わたしが、「わたしの主よ、それはあなたの方がご存じです」と答えると、長老はまた、わたしに言った。「彼らは大きな苦難を通して来た者で、その衣を小羊の血で洗って白くしたのである。それゆえ、彼らは神の玉座の前において、昼も夜もその神殿で神に仕える。玉座に座っておられる方が、この者たちの上に幕屋を張る。彼らは、もはや飢えることも渴くこともなく、太陽も、どのような暑さも、彼らを襲うことはない。玉座の中央におられる小羊が彼らの牧者となり、命の水の泉へ導き、神が彼らの目から涙をことごとくぬぐわれるからである。」

今 栄作兄　こん　えいさく　けい　（2020年5月1日）

野村信規兄　のむら　のぶのり　けい　（1961年5月4日）

ニッ矢義一兄　ふたつや　よしかず　けい　（2017年5月6日）

松浦和子姉　まつうら　かずこ　し　（2022年5月7日）

井上サチ姉　いのうえ　さち　し　（1990年5月10日）

笹本みち子姉　ささもと　みちこ　し　（1940年5月12日）

谷口留夫兄　たにぐち　とめお　けい　（1945年5月14日）

谷口奈良江姉　たにぐち　ならえ　し　（1991年5月14日）

高木勝利兄　たかぎ　かつとし　けい　（2016年5月19日）

木村武雄兄　きむら　たけお　けい　（2012年5月21日）

お祈り

神様。私たちは今、来る5月にあなたの御下へと召された兄弟姉妹を憶えて祈りを捧げています。尊敬すべき信仰の先達のことを思う時、私たちの心はこの世を超えて、あなたの住まう天上にまで及びます。御国の幸いのただ中におられる方々は、必ずやあなたと共に永久の安らぎに身を委ねていると信じます。生前に各々成し遂げられた働きに対する十分な報いが天にはあることを信じます。来る日には、私たちもまた天へと帰っていきます。その時、再び相見える昔懐かしいお顔を前にして、恥じることなくこの地上での働きをお伝えすることができるように、どうか私たちの生活と信仰をあなたが導いてください。天には豊かな平安がありますように、そして、地にはあなたによる力強い導きと、安らかな慰めをお与えください。

この祈りを我らの主イエス・キリストの御名を通して、あなたの御前にお捧げ致します。